

現代アメリカ英語の人称代名詞

山 田 政 美*

Masayoshi YAMADA

Disputable Personal Pronouns in Present-Day American English

Prolog

現代アメリカ英語における人称代名詞一般の考察は Yamada (1977) で、特に3人称・人称代名詞については山田 (1982) で示した。しかし、学習英文法の段階ではせいぜい次のような記述止まりである。

- (1) When a person first arrives in a new country, $\left\{ \begin{array}{l} he \\ he \text{ or } she \end{array} \right\}$ has many adjustments to make.

あるいはこの種の混乱を避けるために

- (2) When people first arrive in a new country, they have many adjustments to make.

とする (cf. 齊藤・安井 1983: 130-134)。

しかし、問題はこれほど単純なものではない。一つには「数」の一致の問題、いま一つは「性」の一致とそれに係わる先行名詞の解釈の問題があるからである。以下でこれらの諸点を明らかにする。

Discussion

Bodine (1975) は次の二つの表に整理してこれらの問題点を提示した (TABLE 1, TABLE 2)。

Bodine が「規範的“he” (prescriptive *he*) (または「総称的“he” (generic *he*) と呼んでいる用法は、従来の規範文法、学校文法が提示してきたものである。これは1850年に法的強制力をもつに至った歴史がある用法である。英国議会は国会制定法の言語を短縮化する法案を通過させたが、その中で

...in all acts words importing the masculine gender shall be deemed and taken to include the plural, and the plural the singular, unless the contrary as to gender and number is expressly provided. (cf. Evans and Evans 1957: 221)

と述べている。英語の体系には3人称単数形で男性と女性を明示しない形態は *it* を援用しない限り存在しないため ‘he or she’ を表わすものとして *he* を用いることにしてきた。ところが、実際にこの目的のために用いられた *he* がそのように正しく解釈されるためには無理な形式であることがわかった (Kidd 1971, MacKay and Fulkerson 1979, など)。

- (3) A lawyer must frequently argue his case out of court.

のような文を聞いてはたしてこの *his* を ‘his or her’ の意味を表わすものと受け取るかどうか (つまり, generic *he* であるかどうか) は興味のあるところである。MacKay and Fulkerson (1979) の実験では、26名中16名だけがそのような意味解釈をしたと報告している。もっとも、これは代名詞が照応する先行名詞に (i) もっぱら女性を想定させるもの: *secretary, typist, model*, など, (ii) もっぱら男性を想定させるもの: *banker, plumber, lawyer, judge*, など, (iii) いずれでもない中立的なもの: *student, artist, dancer, musician* など, があることと関係があることは当然である。この点については, Martyna (1978)[MacKay 1980] が

- (4) Before a judge can give a final ruling,

$\left\{ \begin{array}{l} he \\ she \\ he \text{ or } she \\ they \end{array} \right\}$ must weigh the evidence.

のような表現を与えての実験で調査をしたが、被験者の96%がもっぱら男性が占める職業名の先行名詞については generic *he* を用い、もっぱら女性のそれに対しては87%が *she* を用いたという。いずれにしても65%が singular *they* とか *he or she* よりも generic *he* を用いたという。また、被験者の性の違いから生じた興味深い結果も出されている。つまり、女性の被験者が男性

* 島根大学教育学部英語科教育（英語学）研究室

のそれよりも generic *he* を用いることが少なく、その代わり、特に中立的な先行名詞の場合は、generic *she*, *he or she*, singular *they* を使った。この傾向は、しかし、先行する名詞 (*judge* など) に内在する概念とか意味的記憶にある性差のためではなく、単に女性の話し手 (書き手) にとって *he or she* とか singular *they* のほうが都合がよいためであるから、だというのである。あるいは、その表現の中に女性である被験者自身の姿を投影して考える ('self imagery' hypothesis) ことが容易に起こるからではないか、とも考えられる。

MacKay and Fulkerson (1979) が generic *he* の解釈は実際の言語使用場面では困難なことであることを示したわけであるが、そこでその交替形式として singular *they* が生ずることになる (Bodine 1975, Greene 1978, Miller and Swift 1976 などの指摘も参照)。

MacKay (1980) は、各分野から成る108件の資料を基に generic *he*, generic *she*, *it*, *he or she*, *she or he*, singular *they* を抽出したが、それによると次のような分布であった。

prescriptive <i>he</i>	2,913 exx	$\left\{ \begin{array}{l} \textit{he} \quad 44\% \\ \textit{his} \quad 42\% \\ \textit{him} \quad 10\% \\ \textit{himself} \quad 4\% \end{array} \right.$
generic <i>she</i>	1 ex	
<i>he or she</i>	2 exx	
<i>it</i>	12 exx	
singular <i>they</i>	0	

Singular *they* は形式ばった言語使用場面では現われていないことはすでに Bryant (1962) や Greene (1978) が指摘していて、この点は Miller and Swift (1976) の主張とはいささか異なる。MacKay の prescriptive *he*, つまり generic *he* の用法はその調査では極めて高率で出現した。UCLA で使用の大学教科書について見ると、あるものは666例、別のものには1,682例もあったという。教養のあるアメリカ人が一生の間に接する generic *he* は10の6乗以上になろうという。

MacKay (1980) は上記のコーパスを singular *they* で交替させることを試みた結果 TABLE 3 の分析結果を提出した。それによる頻度数も興味深い。これによると、prescriptive *he* は1資料に平均27回、15.1種の文に、1文につき1.79個起こっていることになり、その頻度の高さがわかる。

それでは singular *they* の持つ特性とはどんなものであるのか、を考えてみる。

1) 中立性 (neutrality)

he はもっぱら女性指向の名詞 (*nurse* など) に用いることができないが、singular *they* は可能である。不定名詞の *someone*, *anyone*, *nobody*, *everybody* などでは意味上からも *they* のほうが自然な響きを与える。つまり、概念的に複数であって、明らかに好まれていることは Langendoen (1970) や Valian (1977) でも明らかにされている。これまで紹介はされていないが Langendoen (1970) を受けてさらに調査を進めた Wedge and Ingemann (1971) が優れているので、関連部分を参考に供する。ここでは tag question における人称代名詞の照応関係を、Group A (beginning linguistic students), Group B (non-professionals), Group L (English teachers) のそれぞれについてその反応を考察している (TABLE 4, FIGURE 1 [いずれも抜粋])。また、Jochowitz (1982) を参照されたい。

2) 否定的特性

they がもつ複数性特性が逆に意味の隠されたあいまいさを生みだす場合がある。

(5) If a scholar has no faith in *their* principles, how can *they* succeed?

ここでは *they* は "a scholar's own principles" であるのか "the principles of some as yet unknown or indeterminant persons" であるのか、あいまいである。むしろ、誤った方向の後者の解釈が優勢であるという。

3) 顕在的あいまいさ

前出(5)で、*they* が "principles" を指すのか、あるいは "scholar" を指すのかあいまいである、とも言える。同様に、

(6) A psychologist protects the welfare of a client and when conflicts of interest arise *they* resolve them in the direction of the client.

they は "psychologist" を指すのか、"psychologist + client" を指すのかあいまいであるが、この種の混乱は先行名詞が複数存在しているときに必然的なものである。

つまり、singular *they* には、

- (i) 数 (number) 一単数/複数いずれの名詞をも指す、
- (ii) 性 (gender) 一男性/女性/中性のいずれをも指す、
- (iii) 抽象性 (abstractness) 一抽象名詞/具体名詞

のいずれをも指す、などの点で不特定のであるという特性を prescriptive *he* と対比させてみるとよい。*God* とか *man* に照応する代名詞として *they* を用いることのとつびさ、再帰代名詞の *themselves* を単数形名詞に並列して用いることのとつびさ (e. g. the *author themselves*), 複数形であることから指示内容のあいまいさ、数の一致のルールに形態上違反する、その他の問題を抱えているのである。

Singular *they* の用法は次のようにまとめてみる事ができる :

- (i) Anyone can do it if *they* try hard enough.
[mixed-sex, distributive]
- (ii) Who dropped *their* ticket? [sex unknown]
- (iii) Either Mary or John should bring a schedule with *them*. [mixed-sex, disjunctive]

Bodine (1975) は、一般に英語の人称代名詞の体系は FIGURE 2, FIGURE 3 のように、現実の語法と伝統文法が提示してきた規範的なルールとの間に相違があることを明示している。Bodine (1974)[Bodine 1975 による] は singular *they* は、正確には次の四つのコンテキストのすべてに起こると言っている :

- (a) mixed-sex, distributive
- (b) mixed-sex, disjunctive
- (c) sex-unknown
- (d) sex-concealed

Singular *they* が用いられた古い用例を求めれば、すでに Poutsma (1916 : 310-312), McKnight (1925 : 12-13 ; 1928 : 197, 528-30), あるいは Visser (1963 : Vol. I, 75-78) などに示されており、これらの歴史的な考察については Bodine (1975) に詳しい。

Bodine (1975) は、また、32種の現在アメリカの中学校、高等学校で使用されている文法の教科書を調査したが、そのうち28種は *he or she* は「ぎこちない」(clumsy) し、*they* は「不正確」(inaccurate) である、という理由で非難していたという。

とはいえ、現実の語法として singular *they* は形式ばらないコンテキストでは十分に容認されていて、それは先行名詞に複数性の特性があるからというだけではないのである。

- (7) *Somebody* left *their* sweater.
- (8) Not *one single child* raised *their* hand.
- (9) When you call on *a student*, it's better if you can remember *their* name.

(Bodine 1975)

明らかにいま一つの社会言語学的要因である「性」の扱

いが大きく介在しているのである。

N.B. 1

"*The Queen Mary* has been scrapped." のような名詞については擬人化 (personification) が問題となり、tag question を作る際には *hasn't it?/hasn't she?* のいずれかが選択されている。例えば Wedge and Ingemann (1971) では次のような反応が得られた (TABLE 5, FIGURE 4)。

この点は MacKay and Konishi (1980), Yamada (1982), などを参照されたい。MacKay and Konishi (1980) では、まず擬人化 (personification) は "whenever abstractions, animals, ideas, and inanimate objects are endowed with human form, character, traits, or sensibilities" に起こるもの (Shaw 1972 : 283) と定義し、子供用読み物を調査した結果を利用したものである。

He animals seemed to differ from *she* animals in characteristic size : *he* animals were typically large mammals such as *lion*, *gorilla*, or *wolf*, whereas *she* animals were typically small birds or insects such as *ladybug* or *bee*. *It* animals were often immature members of the species such as *calf* or *kid*. (MacKay and Konishi 1980 : 153)

全体のコーパスで、動物と空想上の生物に対しては *she* や *it* よりも *he* が、物に対しては *she* よりも *he* が、それぞれ多く用いられていた。動物の場合では *he* 対 *she* は76%対24%、空想上の生物に対しては70%対30%の比率で *he* が多く用いられていた (TABLE 6, TABLE 7)。

- e.g. 1. And the *rat* wore a feather in *his* hat.
- 2. A widow *bird* sat mourning for *her* love.
- 3. The *rabbit* actually took a watch out of *its* waist-pocket.

N.B. 2

性差別を排除するための新しい形態の単数形人称代名詞については山田 (1982) にも触れてあるが、*he or she* のような double-pronoun 構造での語順の問題もあり (cf. Miller and Swift 1980), 書記形式としても *he/she*, *s/he* などとも問題となる。今日までのところどのような形態のものが提案されてきたかについては Baron (1981) が詳しい。また Corbyn (1981) を参照されたい。

Epilog

最近のアメリカ英語における人称代名詞の語法についての考察は、社会言語学者や心理言語学者の手でいくつかが示されていて、本論は特に Professor Ronald G. MacKay (Department of Psychology, University of California, Los Angeles) の好意ですでに 1982 年の早い時期でこれに関する資料の検討を加えていたものである。社会言語学と心理言語学の分野での研究成果を我が国の学習英文法にいかに取り入れることができるか、という著者のこれまでの関心の一部を成すものを紹介した。これだけを見ても、著者が考えてきた学習英文法が提供するであろう情報の質と量が推察できるかと考える。

References :

- Baron, Dennis E. (1981), "The epicene pronoun : the word that failed." *American Speech* 56 : 83-97.
- Bodine, A. (1974), "English third person pronouns." Paper read at the 73rd Annual Meeting of the American Anthropological Association, Mexico City.
- (1975), "Androcentrism in prescriptive grammar : Singular 'they,' sex-indefinite 'he,' and 'he or she.'" *Language in Society* 4 : 129-146.
- Bryant, M. (1962), *Current American Usage*. New York : Funk & Wagnall.
- Corbyn, Ronald C. (1981), "Getting around sexist pronoun." *Anthropology Newsletter* 27 (7) : 10-12.
- Evans, Bergen and Cornelia Evans (1957), *A Dictionary of Contemporary American Usage*. New York : Random House.
- Greene, W. (1978), "A survey of sex-indefinite pronouns : Anyone can use 'they' if they try." *Women and Language News* 4 (1) : 5.
- Jochowitz, George (1982), "Everybody likes pizza, doesn't he or she?" *American Speech* 57 : 198-203.
- Kidd, V. (1971), "A study of the images produced through the use of the male pronouns as the generic." *Moments in Contemporary Rhetoric and Communication* 1 : 25-30.
- Langendoen, D. T. (1970), *Essentials of English Grammar*. New York : Holt, Rinehart.
- MacKay, Donald G. (1980), "On the goals, principles, and procedures for prescriptive grammar: Singular *they*." *Language in Society* 9 : 349-367.
- MacKay, Donald G. and D. Fulkerson (1979), "On the comprehension and production of pronouns." *Journal of Verbal Learning and Verbal Behavior*. [Received in manuscript, May 26, 1982]
- and Toshi Konishi (1980), "Personification and the pronoun problem." *Women's Studies International Quarterly* 3 : 149-163.
- McKnight, G. H. (1925), "Conservatism in American speech." *American Speech* 1 : 1-17.
- Martyna, W. (1978), "Using and understanding the generic masculine. A social-psychological approach to language and the sexes." Unpublished Ph. D. dissertation, Stanford University.
- Miller, C. and K. Swift (1976), *Words and Women*. Garden City, N. Y. : Anchor Press.
- (1980), *The Handbook of Nonsexist Writing*. New York : Lippincott & Crowell.
- Poutsma, H. (1916), *A Grammar of Late Modern English*. Groningen : P. Noordhoof.
- Saito, T. and I. Yasui (斎藤武生・安井泉) (1983), 『名詞・代名詞』講座・学校英文法の基礎 2. 研究社出版.
- Shaw, Harry (1972), *Dictionary of Literary Terms*. New York : McGraw-Hill.
- Valian, V. (1977), "Linguistics and feminism." In Ellison, F., J. English and M. Vetterling (eds.) (1977), *Feminism and Philosophy*. Totowa, N.J. : Littlefield, Adams.
- Visser, F. Th. (1963), *An Historical Syntax of the English Language*. Leiden : E. J. Brill.
- Wedge, George and Frances Ingemann (1971), "Tag questions, syntactic variables, and grammaticality." *Papers from the Fifth Kansas Linguistics Conference*. Lawrence, Kans. : The Linguistic Department, University of Kansas, 166-203.
- Yamada, M. (1977), "Notes on personal pronouns in present-day English." *The Memoirs of the Faculty of Education, Shimane University* 11 (Literature & Social Science), 1-12.
- (山田政美) (1982), 『現代アメリカ語法—フィールドノート—』研究社出版.

TABLE 1. *Functions and examples of prescriptive he*

Function	Example
Mixed-sex distributive	<i>When voters elect a legislator, he has four years in office.</i>
Nonhuman reference	<i>A fox tucked his tail between his legs and ran off.</i>
Sex-unknown	<i>Someone left his sweater.</i>
Sex-concealed	<i>During the closed session, one of the committee members said he considered the bill worthless.</i>
Mixed-sex disjunctive	<i>If either John or Mary comes, I will meet him at the airport.</i>
Deity function	<i>God manifests Himself in many ways.</i>

TABLE 2. *Functions and examples of singular they*

Function	Example
Mixed-sex distributive	<i>When voters elect a legislator they have four years in office.</i>
Nonhuman reference	<i>A fox tucked their tail between their legs and ran off.</i>
Sex-unknown	<i>Someone left their sweater.</i>
Sex-concealed	<i>During the closed session, one of the committee members said they considered the bill worthless.</i>
Mixed-sex disjunctive	<i>If either John or Mary comes, I will meet them at the airport.</i>
Corporate reference	<i>If Seattle calls tell them I'm out.</i>

TABLE 3. *Analysis of the transformed corpus*

Mean number of singular <i>theys</i> per source	27.00
Mean number of sentences containing singular <i>theys</i> (per source)	15.10
Mean number of singular <i>theys</i> per sentence	1.79
Mean number of sentences per source	74.60
Probability that a sentence contains singular <i>they</i>	0.20
Mean number of ambiguous sentences per source	6.20
Probability that a sentence containing singular <i>they</i> is ambiguous	0.40
Mean number of partially ambiguous sentences per source	0.79
Probability that a sentence containing singular <i>they</i> is partially ambiguous	0.05
Mean number of covertly ambiguous sentences per source	4.18
Probability that a sentence containing singular <i>they</i> is covertly ambiguous	0.28

TABLE 4.

32-41 Items with every, all, few, any.

32. Everyone likes me.

	A	B	L
Doesn't he?		1 (3%)	12 (26%)
Don't he?		1 ¹ (3%)	
Don't they?	12 ^{1a} (100%)	28 ¹ (88%)	34 (74%)
Do they not?	1 ^a (8%)		
Do they?		2 (6%)	
Checked	1 (8%)	2 (6%)	

33. Everyone likes one another here.

	A	B	L
Doesn't he?	1 (8%)	1 ¹ (3%)	10 (22%)
Does he?			1 (2%)
Don't they?	9 ^{1a} (75%)	26 ¹ (81%)	34 (74%)
Do they not?	1 ^a (8%)		
Do they?		1 (3%)	1 (2%)
Don't we?	2 (17%)	1 (3%)	
Do I?		1 (3%)	
Shouldn't they?		1 (3%)	
No response		1 ¹ (3%)	
Checked	1 (8%)	3 (9%)	

34. All the students like one another here.

	A	B	L
Don't they?	11 ^a (92%)	28 (88%)	46 (100%)
Do they not?	1 ^a (8%)		
Do they?		3 (9%)	
Don't you?		1 ¹ (3%)	
Checked		1 (3%)	

35. Everyone likes himself here.

	A	B	L
Doesn't he?	4 ¹ (33%)	12 ^a (38%)	45 (98%)
Don't he?		1 (3%)	
Didn't he?		1 (3%)	
Don't they?	7 ¹ (58%)	16 ^a (50%)	1 (2%)
Do they?		1 (3%)	
Don't we?	1 (8%)	2 (6%)	
	2 (17%)		

36. Everyone likes everyone here.

	A	B	L
Doesn't he?	1 (8%)	3 ² (9%)	14 (31%)
Doesn't she?			1 (2%)
Don't they?	11 ^{2a} (92%)	21 (66%)	31 (67%)
Do they not?	1 ^a (8%)		
Do they?		3 (9%)	
Didn't they?		1 (3%)	
Don't we?		3 (9%)	
Do we not?		1 (3%)	
Checked	2 (17%)	2 (6%)	

37. Not everyone likes himself here.

	A	B	L
Does he?	5 (42%)	6 (19%)	43 (94%)
Doesn't he?		1 (3%)	3 (6%)
Do they?	6 ¹ (50%)	18 ² (56%)	
Don't they?		2 (6%)	
Do we?	1 (8%)	1 (3%)	
Do you?		1 (3%)	
No response		3 ³ (9%)	
	1 (8%)	5 (16%)	

38. Not everyone likes everyone else here.

	A	B	L
Does he?			12 (26%)
Do they?	11 ¹ (92%)	25 ¹ (78%)	34 (74%)
Don't they?	1 (8%)	4 ¹ (13%)	
Do we?		1 (3%)	
Can't you?		1 (3%)	
No response		1 ¹ (3%)	
Checked	1 (8%)	3 (9%)	

39. Few people like me.

	A	B	L
Do they?	12 ¹ (100%)	20 ¹ (63%)	39 (85%)
Don't they?		10 ³ (31%)	7 (15%)
Do they not?		1 (3%)	
No response		1 ¹ (3%)	
Checked	1 (8%)	5 (16%)	

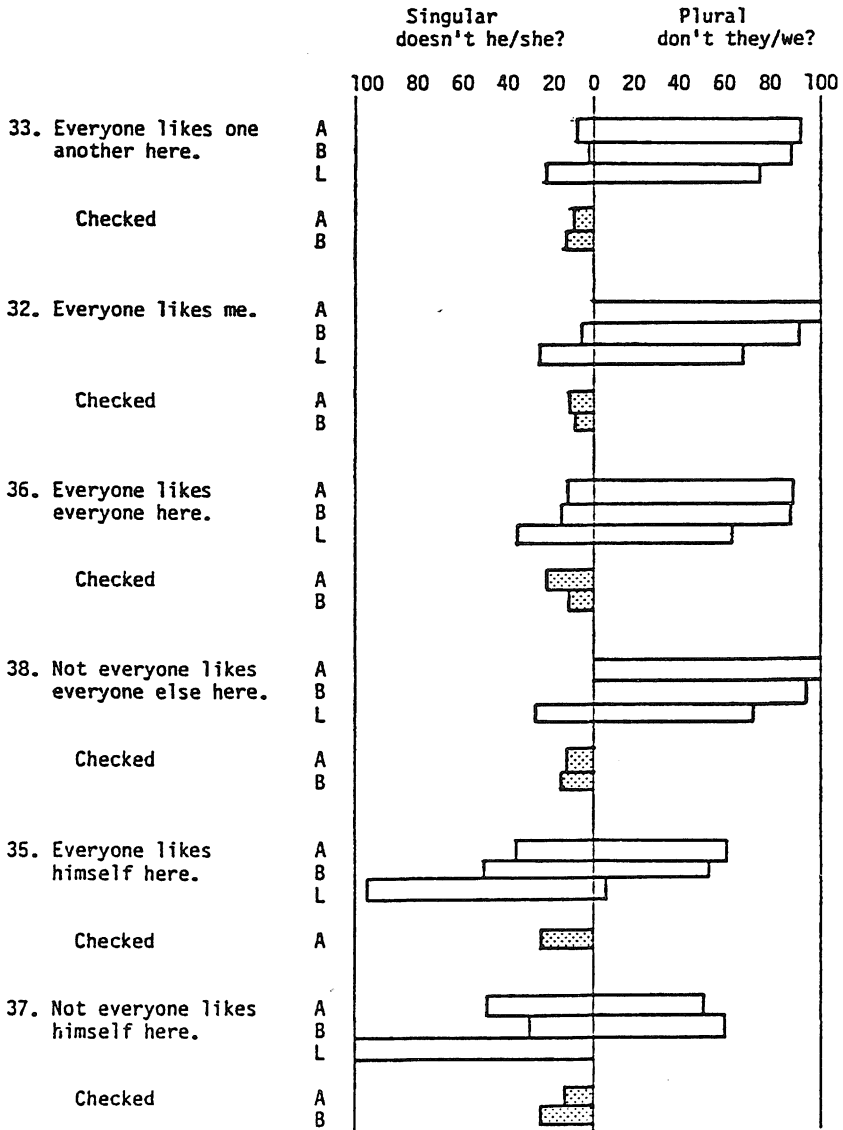
40. A few people like me.

	A	B	L
Don't they?	11 (92%)	29 (91%)	46 (100%)
Do they not?	1 (8%)		
Do they?		3 (9%)	

41. Seldom did anyone say anything.

	A	B	L
Did he?			19 (41%)
Didn't he?			3 (7%)
Did one?		1 ¹ (3%)	
Did anyone?		1 (3%)	
Did they?	12 ¹ (100%)	22 ¹ (69%)	22 (48%)
Didn't they?		4 (13%)	2 (4%)
Couldn't they?		1 (3%)	
No response		3 ³ (9%)	
Checked	1 (8%)	5 (16%)	

FIGURE 1.



		NUMBER		
PERSON	SINGULAR		PLURAL	
1st	I		WE	
2nd	YOU			
3rd	IT	SHE	HE	THEY

FIGURE 2. English pronouns according to usage. (Two significant features of Figure 1 are the extension of 'you', which will not be discussed here, and the extension of 'they', which is the subject of this paper. Personal pronominal usages not included in Figure 1 are 'it' when used of a baby, second person plural 'ya'll' or 'you all', and impersonal 'one'.)

		NUMBER		
PERSON	SINGULAR		PLURAL	
1st	I		WE	
2nd	YOU			
3rd	IT	SHE	HE	THEY

FIGURE 3. English pronouns according to traditional grammatical analysis.

TABLE 5.

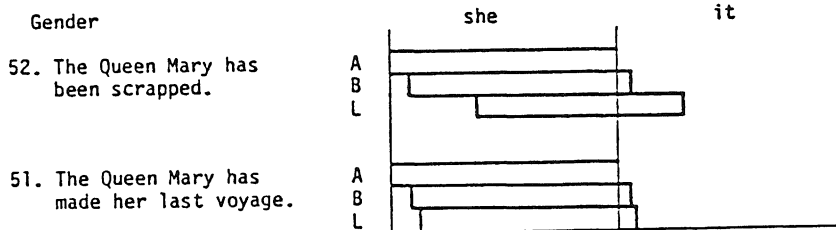
51. The Queen Mary has made her last voyage.

	A	B	L
Hasn't she?	12 (100%)	23 (72%)	41 (89%)
Has she?		2 (6%)	
Hasn't it?		1 (3%)	5 (11%)
Didn't she?		4 (13%)	
Did she?		1 (3%)	
Didn't it?		1 (3%)	

52. The Queen Mary has been scrapped.

	A	B	L
Hasn't she?	12 (100%)	26 ^a (81%)	30 (65%)
Has she?		4 ^a (13%)	
Hasn't it?		2 (6%)	16 (35%)
Has it?		1 (3%)	

FIGURE 4.

TABLE 6. The use of *he* and *she* vs *it* for personified vs non-personified antecedents

Nature of antecedent	Total	Pronoun used			
		<i>he</i> and <i>she</i>		<i>it</i>	
	<i>N</i>	<i>N</i>	%	<i>N</i>	%
Animals					
Personified	234	219	94	15	6
Non-personified	218	150	69	68	31
Fantasy creatures					
Personified	34	33	97	1	3
Non-personified	0	0	0	0	0
Things					
Personified	59	53	90	6	10
Non-personified	26	6	23	20	77
Total					
Personified	327	305	93	22	7
Non-personified	246	156	64	88	36

TABLE 7. The use of *he* and *she* vs *it* for named vs unnamed antecedents, and sex specific vs sex indefinite antecedents

	Total	Pronoun used			
		<i>he</i> and <i>she</i>		<i>it</i>	
Nature of antecedent	<i>N</i>	<i>N</i>	%	<i>N</i>	%
Named	113	110	97	3	3
Unnamed	339	259	76	80	24
Sex-specific	94	88	94	6	6
Sex-indefinite	358	281	78	78	22